

資料渉猟余話

その90

昨年五月のことである。天龍峽在住の

なものが多かった。

それらの中で、川

今村節子氏から南信

州地域資料センター

へ、故今村良夫・眞

直父子の蔵書等、大

量の寄贈があった。

公民館に保存してい

人も知る今村父子

は、天龍峽に関する

著書も多く、同地の

研究・保護に尽くさ

れた文化人である。

親子二代にわたって

集められたものだけ

に、地域の歴史や文

化を考える上で貴重

付近を散策する中村

不折夫妻の写真であ

る。昭和初期だけ

に、帽子をかぶって

立つ不折も、寄り添

う婦人も共に和服で

ある。案内している

一枚の写真から①

中村不折の天龍峽来遊

鎌倉 貞男

のは、当時天龍峽に

あった旅宿「仙峽

閣」の主人原貞造で

ある。バックには、

大正七年から昭和四

十六年まで利用され

た。当地では、上京

以前、飯田小学校で

夢田春草を教えたこ

とで知られている。

その不折が天龍峽

を訪れ、仙峽閣に来

泊したのは、昭和十

一年五月である。時

に七十一歳の不折

は、前年に帝国美術

院会員に推されるな

ど、画や書の大家と

して著名であった。

同年十一月には、既

に竣工していた「書

道博物館」を正式に

開館させた。

正確な日時は不明

だが、天龍峽ではか

なり長く逗留したら

しい。下の写真中央

に立つのは、いと夫

人である。不折は、

長女まさ(天逝)・

二女とし(天逝)・

三女みね尾・長男丙

午郎・二男摠六・三

男亥三郎(天逝)を

産み育てたり、舅源

造や姑リウと同居し



右から中村不折、いと夫人、原貞造

を迎えていた。向かいに龍角峰が見える「錦の間」に逗留した不折は、原の求めに応じて快く揮毫した。この来泊は、不折夫妻にとって、日常の慌ただしさから解放されて心休まる一時だったような気がする。

また、この来泊は、不折の画境に多少の影響を与えたかも知れない。なぜなら、天龍峽の景観は、彼の描く山水画に通うところがあるように思っからである。(故人敬称略)